

アンケート結果

昨年末に行ったアンケートでは、合計で186通も意見を寄せていただきました。ありがとうございました。今回はその結果を報告します。皆さんの貴重な意見を参考に区長にプレゼンテーションしました。以下、意見が多く来た順番に紹介します。④

1位 居場所

テニスやサッカー、野球などのスポーツができる場所がほしい、という意見が一番多かったです。確かに公園があっても球技ができない場所が多いですね！私たちの思いをしっかりと伝えました。



2位 青少年問題

深い意見が多かったです。大人が間違っている子どもを注意しないなど、大人の問題をあげていたり、家庭でのしつけ、学校教育などについての意見が多くありました。遠いようでも私達のとても近くでおこっている青少年の犯罪を減らすには大人も子どもも一緒になって考えなければなりません。

3位 意見表明

多くの人が家や学校などで意見を聞いてもらえなかった経験があるようです。また、親や教師→大人との関係に悩んでいるという意見もありました。これらを解決していくには子どもが意見を言える環境づくりや意見をきちんと聞き、受けとめることが大事だという意見がありました。

4位 社会参画

大人と同じように子どもも事業に参加したいという意見が多かったです。子どもの中に入ると新鮮な意見が出るし、大人の立場では分からない意見が言えるので大人にとっても良いという意見もありました。一方、子どもが意見を言っても無視される、また、意見を出す機会がないという意見もありました。

杉並区長へ提案しました



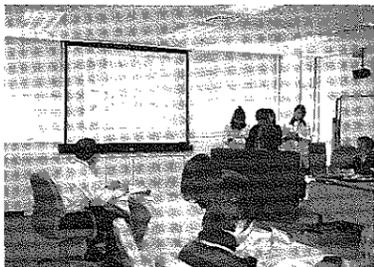
「ユースプロジェクトすぎなみ」では去る12月27日に区長との懇談会を開きました。当日は下記の内容でプレゼンテーションを行い、区長から様々な意見やアドバイスなどをいただきました。

居場所

私たちは自分たちが「あったらいいな」と思う居場所について話しました。居場所がほしい理由は3つあります。

1. 大人に大事な話を聞かれない！→友達関係、恋のお話し
2. いつもと違う落ち着ける空間がほしい！→ゆとりがあってのびのびとした空間
3. お金がかからない場所がほしい！→お小遣いがそんなにないので…

今回は居場所についてアンケートの結果で一番多かった、広い場所でスポーツのできる場所がほしいという意見を中心に区長への提案を考えました。広い場所は学校の校庭や体育館、スポーツセンターでいいのでは？と思われる方もいらっしゃると思いますが、学校の体育館、校庭は部活で使っていますし、スポーツセンターなどの施設の体育館は小さな子がいたりして思う存分動けなかったり、中高校生の活動に理解がない大人がいたり、十分に運動が出来ません。このことはストレスの発散のさまたげにもなります。このようなことから、新しい施設をつくるのが難しいとしたら、既存のスポーツ施設に中高校生専用の利用時間を設けることや使用料のたのみの日をつくってほしい、と提案しました。



意見表明とひとことに言っても、イメージするものはたくさんあるでしょう。その中でも「私達子どもにとって、意見を伝えたいのに、それが困難なのはどんな場合だろう？」という考えから、今回はいじめを受けている子どもの意見表明について特に焦点をあててプレゼンテーションを行いました。

まず「いじめを受けている子どもが、何も恐れることなく自由に意見を伝えられる環境をつくりたい。そんな環境が実現すれば、どのような子どもでも意見表明しやすい杉並になる」という目標を設定しました。これを軸に「いじめられている子どもはなぜ意見表明ができないのか」、「意見表明することによるメリット」などを話し合いました。そして、「意見表明することを通じて、間接的にでもいじめの減少につながってほしい！」という思いから、杉並区に対し下記のような提案をしました。

自分の意見をはっきり伝えいじめを未然に防ぐために、①学校の授業で話す・聴く練習の時間を取り入れる、②意見表明権について学び、自分の意見を伝えることの大切さを知る、③実際にいじめられている子どもを助けるために、いじめに関する専門機関をつくる（カミングアウトも一種の意見表明と考える）、④いじめをテーマにした杉並版「しゃべり場」をつくる、また、私達にできることとして、⑤いじめ体験を聞く会を主催する、⑥先生を対象とした意見表明の大切さについての講習会を主催する、などの希望も伝えました。区長をはじめとした区の方々は発表を熱心に聞いてくださいました。

これらの提案のうち、「いじめをテーマにしたしゃべり場」は「いじめについての意見交換会」として来年度に実現することが決定しました。④



意見表明

青少年問題

私たちは、青少年問題は大人や地域などの周囲の環境にも問題があるのではないかと問題提起した上で、主に万引き、飲酒とタバコの害や現状を中学1年生から高校3年生までを対象に調査し、対策を考え、区長に提案しました。最近の青少年は、飲酒もタバコも体に良くないと知っていても、実際病気になる人が身近にいないため実感がないし、友達付き合いや好奇心、親の影響でしてしまうという現状でした。そこで私たちは未成年が酒やタバコを購入できないようにするために、店やコンビニでは免許証や住民票といった確実に年齢を確認できるものの提示を義務づけ、自動販売機は昼間学校がある時間だけしか使えないようにすれば良いのではないかと考えました。万引きは大半が高校生で、店員や客の目の届かない店舗の奥が被害にあいやすい現状だったため、店員の目の届かない場所で万引きを目撃したお客様がお店に報告しやすくするために、場所・雰囲気気を配った『防犯コーナー』設置することで解決につながるのではないかと考えました。青少年問題について重要なことは『早期発見・早期治療と周りの環境』です。

青少年犯罪をなくすためには地域の人達の交流を深め、他人の子供であっても悪いことをしていたら注意できるような人間関係を築き、自然に青少年問題がなくなるような環境を作るべきです。そのために、全体的な結論として同じ境遇の親を集めて交流会を開いてはどうかと提案しました。④



社会参画

今回私たちは子どもの『社会参画』について区長に提案しました。

なぜ私たちが「社会参画」をテーマにしたかということ子どもが社会参画をすることで、将来大人になったときに社会に関心が持てたり、様々な人と出会い幅広い意見を吸収できたりという利点があるからです。また、ユースプロジェクトすぎなみでアンケートをとったところ、『子どもの社会参画の機会を増やしてほしい』という意見が多数ありました。しかし現状では、子どもの社会参画は形だけで、子どもは大人の手伝いだけ、という例も少なくありません。そこで私たちは今回の懇談会で、『子どもに社会参画する機会と情報を増やしてほしい』ということや『子どもの社会参画を促進する為に大人の意識も変えてほしい』という提案をしました。さらに区の職員だけでなく、一般区民も交えた話し合いの場を作してほしいということや、子ども達が企画から参加し、自分たちの力でやり遂げるということや子どものネットワークを広げることを目的とした『学校対抗クイズ大会』という企画を具体例で挙げました。『学校対抗クイズ大会』は区長も良い反応をして下さり、予算がつくかもしれないということでした。

最近、自立出来ない子どもが増えていると言われていて、このような企画を子ども達で完成させ、その中で成長することが本当の大人になる一歩ではないのでしょうか？④



